

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2790900084		
法人名	社会福祉法人 香西会		
事業所名	グループホーム ティアラ		
所在地	大阪府高槻市大冠町二丁目19番1号		
自己評価作成日	平成 31年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligvosyoCd=2790900084-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligvosyoCd=2790900084-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高槻市のなかでも閑静な田園地域に位置し、広い窓からは四季折々の風景を眺めることができます。大きな窓やテラスを活用して花鳥風月をご利用者様とともに楽しんでいます。職員の出勤・退勤時には地域の方から声をかけて頂くほか、ご自宅に咲いた花や畑でつくった野菜を持ってきてくださるような間柄です。平成29年6月の地震の際にも、自治会長さんや近隣から安否を尋ねていただきました。定期的に来て下さるボランティアさんも増えご利用者様の楽しみの多様化が図れています。併設する小規模多機能のご利用者様との交流により、毎日の暮らしが画一的にならないよう工夫しています。ご家族様の面会機会も多く、ケアプランにもご家族様やご本人の意向を十分に反映させることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは民家や畑が残る、田園風景がある自然豊かな環境の地域に立地しています。、ホームの前には公園や堤防等があり、利用者がその日の希望にそって出かけられる環境にあります。利用者と職員で地域のごみ拾いに出かけ、地域の方々と一緒に交流をしたり、地域の防災訓練や運動会へも参加して地域との交流も活発に行っています。母体の社会福祉法人は理念の中に「地域と密着したサービスの提供」を掲げ、職員に周知しています。管理者は職員と共に「利用者や家族の笑顔を育み、地域の方々との温かい交流ができる、陽だまりの”縁側”のようなホーム」をホーム目標として共有し、利用者の思いを汲み取ったサービスを提供しています。今後に期待の持てるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始前に、職員同士で話しあい作成した理念を掲げ、見やすい場所に掲示して常に共有を図っています。また、新人研修時に理念に対する理解度確認を行い、常に意識を持てるようにしています。毎年実施する基礎研修では、法人の理念とともにティアラの理念を再確認し、実施と合致しているかを振り返っています。	母体法人の理念を基に、開設時に職員で話し合い、「ご利用者様とご家族の笑顔を育み、地域の方々とあたたかい交流ができる、陽だまりの“縁側”のようなホーム」を目標として、また「あなたが主役の生き生き生活 家族と歩む安心ケア 誰もがくつろげるほのぼのの縁側」をホームの理念として掲げ、実践につなげています。職員には毎年実施される基礎研修で再確認しています。また新人教育の際に新入職員は「法人の理念」と「グループホームの理念」を覚えて研修に望んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方との交流は、気軽に挨拶を交わすほど日常的にはかれています。地域とティアラがお互いのイベントに気軽に参加できる関係を作っています。また、毎週一回地域のごみ拾いを行っており、微力ながら少しでも地域に貢献できることを目指しています。6月の震災時には自治会長が直後にかけて安否確認を行っていただきました。防災訓練等にもいつもお誘いいただいています。	管理者は地域とのつきあいの大切さを理解し、ホームの目標にも掲げ、日頃から近隣住民との交流を図っています。職員は「地域清掃確認表」を作り、地域を区分けして、毎週1回利用者と一緒にゴミ拾いを行っています。職員と利用者、2人で出かけることで、利用者が地域住民の一人であることを実感できるような支援に取り組んでいます。作業中には近隣住民や子どもたち、利用者の家族、警察の方などの声かけもあり、地域住民との交流の機会となっています。ホームは住宅街の中にあるため、途中で狭い道路があり、家族や業者の訪問時に近隣住民に迷惑をかけないように、管理者は今後、迂回道路の地図を渡すなどの取り組みも検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>週に一回、地域の清掃に職員が出ており、気候のよいときにはご利用者様も共に行ってください。施設前の公園掃除には、お声かけしながらできる限り利用者様と共に参加するよう心がけています。クリスマスのイルミネーションも暗い夜道を明るく照らしました。11月の地域運動会では、認知症の方も参加できるパン喰い競争に、地域の方の介添えを受けながら参加する事ができ、楽しい写真が撮れました。</p>		
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員、利用者及びその家族の参加が得られており、地域と利用者の関係づくりに約立っています。参加メンバーからは地域行事や催し物の計画をよく紹介いただくので、できる限り参加するようにしています。ティアラの課題と共に、地域の課題もお話しいただき、解決の方策などを話し合っています。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催しています。会議では自治会長より地域の行事案内や地域情報の提供を受け、ホームからは行事の予定、ホームで過ごす利用者の様子、地域住民との交流状況、苦情等を報告し、参加者から意見や助言を得て、サービスの向上に活かしています。地域住民、民生委員からの情報により、地域で暮らす高齢者の生活の困難さを把握し、自治会長を通して地域包括支援センターへ繋げた事例があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事業活動の中から発生した質問、疑問については常に市町村担当者に相談、確認をしており市町村と足並みをそろえてニーズに対応できるようはかっています。また、骨折を伴う事故など発生した場合すみやかに報告連絡をしています。</p>	<p>市町村の担当者とは日頃から連携ができています。管理者は日々のサービスの中で疑問等が生じた際は担当者に相談し、対応について意見交換を行うなど連携を図っています。事故報告等は速やかに連絡をしています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「香西会は身体拘束・虐待をしないことを誓います。」と誓いの言葉を掲げ、新人教育や内部研修(基礎研修)の実施により徹底して身体拘束をしない介護に取り組んでいます。離設の危険がある事例が発生した場合には、日々の記録をミーティングなどで話し合い情報を職員間で共有し安全確保に努めています。さらに、月に一度の会議で、身体拘束を行っていないことを確認しています。</p>	<p>身体拘束廃止についてのマニュアルを作成し、職員間で共有しています。重要事項説明書に虐待防止、身体拘束等原則禁止の文言を明記しています。職員はスピーチロックや行動制限についても身体拘束になることを認識しています。「拡大接遇委員会」を発足し、会議では対応が困難な事例を挙げ、職員間で話し合う機会を作っています。法人内では「身体拘束・虐待をしないことを誓います」と誓いの言葉を掲げ、新人教育や内部研修の実施により徹底して身体拘束をしない介護に取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人教育で実施しています。また、現職員に対しても、集団研修や内部研修（基礎研修）の実施や新人教育時の講師を行う事で継続的な啓発に努めています。発生した事故については徹底的に原因を究明し、再発を防止し、かつ職員による虐待ではないことを証明することをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成28年度に地域包括の主催する会議で成年後見制度について学ぶ機会がありました。今後も市町村・地域包括支援センターで後見人制度や日常生活自立支援を学ぶ機会があれば参加させていただき、管理者やケアマネージャーから介護職員にも知識が行き渡るように内部研修なども行いたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者と契約を締結・解約する際には丁寧な説明をこころがけ、疑問点には全て答え、納得の上契約・解約を頂くようにしています。利用開始後に発生した疑問についても遠慮なく質問するよう必ず伝えていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は利用者とその家族を固定せずに交代で参加してもらい、利用者からの意見が偏ったものにならないよう工夫しています。家族が意見を言いやすいようこまめな連絡を行い、利用者ノートを作り、家族からの意見や質問が職員に周知できる体制をとり、毎日のミーティングの場でも共有するよう努めています。毎月末や行事のお報せの際には家族あてに一ヶ月のご利用者様の様子を報告するお手紙を、介護職員・看護職員の意見を記載してお送りしています。今年度も家族交流会を行い、家族様間で自己紹介をしてもらい顔の見える関係づくりもさせていただきました。	職員は日頃のケアの中で利用者や家族が意見を言いやすいよう工夫をしています。家族には運営推進会議への参加を働きかけ、また年1回、家族交流会を開催して意見を汲み取っています。参加が困難な家族には月に一度手紙を送り意見を聞いています。職員は面会時には家族が意見を言いやすいような雰囲気です。職員が聞き取った意見は、毎日のミーティングで意見交換し職員間で共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全体会議を通じて管理者と理事長・事務長が意見を交換する場を設け、それをティアラ会議にて各主任に伝える双方向の仕組みをとっています。管理者は他職員との意見交換を日常的に行えるよう環境整備に努めています。日常的なケアや対話の中から、職員のアイデアを拾い開設者に相談できる体制を整えています。	管理者は毎年4月に個別面談を行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。日常的な会話の中で意見を聞いたり、職員の体調への気配り等にも心がけて接しています。職員同士でも経験の長い職員が経験の浅い職員に声をかけ、意見交換ができる機会を設けています。	今後も、管理者と職員との間で、相談や意見交換等を密に行い、より良いケアに反映させていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>平成 24 年度よりキャリアパス制度の導入。平成 25 年度～今年度まで、事業所としての目標を掲げて全員で取り組みを繰り返す中で、今季は口腔ケアを課題に掲げて改善に取り組みました。12 月からは追加として、音楽を流して口腔ケアを促し、自発的に口腔ケアができるような環境づくりを行っています。次年度も継続し、歯科医と連携した口腔ケアの取り組みを行いたいと考えています。職員が資格取得のための研修を法人の補助で受けられるように支援しています。介護福祉士試験では、先に合格した職員からのアドバイス等も受けやすい環境ができています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成し、資格取得に向けた体制をつくっており職員から行きたい研修を管理者に相談できるように常に研修の情報を職員入り口に掲示しております。管理者は全ての職員が平等に研修を受けられるように配慮しています。研修に行った職員は研修報告書を作成し内容を全ての職員に周知できる体制をとっています。来年度は職員個々人が自分の課題を持ち、より積極的に外部研修や内部研修に参加するように育成したいと考えています。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市町村が行う研修会やケアマネ連絡会、包括が行う地域包括ケア会議に参加しています。また、高槻ケアネットという、介護保険事業者が情報交換や勉強会をする会に所属しており、このネットワークを活かした交流も図っていくように努力したいと考えています。近隣の病院のソーシャルワーカーさんとは顔見知りの関係になっており、定期的に営業に行く際には必ず情報交換を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に家族や担当ケアマネからの相談受付だけでなく、必ず本人と面談し家族の意向の調整を図りながら本人が納得してサービスをうけられるよう努力しています。また、ケアマネージャー以外のスタッフも面接に同行しています。収集した情報は必ず主治医にとどけ、フロアスタッフ、看護師とも共有し、スタッフの不安部分はできるだけ入居前に解消するようご家族とも相談しています。ご家族・ご本人が安心してグループホームでの生活を開始できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、本人の耳には入れたくない事情などの相談があるため、その都度個別に対応するなどの配慮をしています。ご家族と本人との信頼関係が悪化しないよう、本人への説明内容なども充分配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p><b>○初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス導入前にご本人やご家族と面談する際には職員 2 人以上で面談し、その時希望している支援が何なのか多角的に質問や意見聴取ができるようにしています。ご利用前に面談した内容を職員に周知し不足している情報など挙げてもらい情報に肉付けをするようにしています。入院先からの入居の場合にはできるだけ病院にてカンファレンスの場をもうけて頂いています。ご本人にとっては大きく生活環境が変化するため、認知症への悪影響や体調の変化も可能性として考えられることなど、リスクも含めて相談し対応も考えた上でご入居いただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をしたりレクリエーションをしたりしながら、お互いが双方向的な関係であることを意識できる空間を大切にしています。現在はご利用者様ひとりひとりが家事の役割を持ってくださり、共同生活の中の一員として活躍してくださっています。そのらしさをみつけ生活の中で役割を担ってもらくと同時に利用者ノートの活用により職員に周知徹底できるようにしています。一人一人が持つておられる能力を発揮していただき、どんなに小さいことでも、ご本人の努力に対して感謝の気持ちを伝えるよう心がけています。</p> <p>このことを実施するため、個人個人の得意なことや好きなこと、苦手なことをリサーチし、その方にあった毎日の日課をもっていただいて共に暮らし支えあっています。手作りごはんの行事も定期的に取り入れ、これまでご利用者様が参加できなかった調理や盛り付けなどの場面でも活躍していただけるようになりました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月一度、利用者のご様子や施設の情報を介護職から、往診時の先生のお話は看護師から記入させていただいた手紙を書き、近況を報告させて頂いています。また、ご家族様が来所された時には声かけを行い、現状報告と同時に家族様からの要望、利用者様の生活歴や好きなこと、好きなものなどお聞きしてケアや日課を考える上でのヒントにしています。病院への受診の協力もご家族様から得られています。</p> <p>ご家族様の面会も多く、気軽に出入りしていただけるグループホームになっていると考えます。職員は常にご家族様の健康状態についても日常会話の中から情報を得て、ご家族様の体調を気遣う言葉かけをするよう心掛けています。また、ご利用者様とご家族様が電話でのやり取りができるような支援も取り入れています。</p> <p>外出行事にはご家族の参加が得られ、ご家族同士の交流の場とすることができています。年に一度行う家族交流会では、ご家族自ら司会をしてくださったり、お茶を楽しみながら会話ははずんだり、楽しい時間を過ごして頂くことができています。スライドショーで一年を振り返る出し物は、毎年「年間の活動の様子や、家族も見た事が無いような本人の笑顔が見られた」と好評をいただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>                      本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族には、面会や見学はいつでも可能であることを伝え、親類や友人が訪ねてきてもらえるようにしています。                      個人情報保護の観点から、必ず来所された場合は、面会カードに記入してもらっています。ふだんあまり来られない方の来所が事前にわかっている場合には、ご家族からその方のお名前などの情報を頂くようにしています。ご友人などからお電話をいただいた際には、事前にご家族に了解をとっていただきたい旨をお伝えし、ご協力頂いています。後日、家族様が来られた場合に報告させていただいています</p>	<p>利用者には近隣に住んでいた方もいて、親しかった友人が訪ねてくる方や、併設の小規模多機能ホームの利用者と交流をする方もいます。近くの美容室に家族が同行していく利用者がいて、職員は挨拶に行くなど日頃から地域住民と連携し、関係が途切れないような支援に努めています。小規模多機能ホームの利用者とホームの利用者との交流が週2回ほどあり、地域ボランティアの訪問の際に、バルーンリハビリやクラフト作品づくりなどを一緒に楽しむ利用者もいます。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>                      利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>同じホーム内および隣接する小規模多機能の利用者様との交流を行い、フラワーアレンジメント・バルーンリハビリ教室、合唱(ハーモニカ、三味線演奏)等を催し、同じ目的をもって活動に取り組み、ともに何かを作る喜びを分かち合う支援を行っております。年間行事計画の中に合同行事を盛り込むことによって、同じ季節感をあじわいながら多数の利用者様と交流を持てるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、その後の経過を尋ねたり、相談をいただいたりといった関係を継続しています。退所後にお亡くなりになられたのとお知らせをきいた場合はできるだけ仏前に手を合わせに行かせていただき、家族と共通の思い出を語りあえる時間を設けています。退所後、ご家族の許可とご本人の環境が許す限り面会に伺うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン更新時には、まず本人の意向を聞き反映しています。本人の意向を尊重するうえで家族様の意向・スタッフの意見なども集め、本人・家族様の思い、専門性を持った意見などを取り入れたプランを作成の上、本人様、家族様に説明、確認了承をいただくようしています。また、本人の意向だけを尊重すると危険が伴うと考えられる場合には、本人に納得できる説明を行うとともにご家族とも相談して実現を図るようにしています。	職員は利用者一人ひとりの希望や意向を日々のケアの中での会話から聴き取り、支援につなげています。思いを伝えることが難しい方には、表情や態度から本人の思いや意向を感じ取り、支援を行っています。聞き取った利用者の思いは職員間で共有しています。利用者の排泄時の支援について、本人の思いに沿ったケアを職員間で検討して対応した事例があります。地域のごみ拾い等に出かけた際に、職員は自分史を語ってくれる利用者の思いを聴き取り、その後の日々のケアに活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、本人や家族の言葉としてこれまでの暮らしを教えて頂いています。居宅や地域包括支援センターのケアマネージャーさんからも在宅時のプランなどの情報を頂いています。また、サービスご利用中にも世間話として昔の話や趣味のことなども話題にし、情報の肉付けを行っています。通院にご家族様と同行して、ご本人の歴史についてお聞きしたこともあります。得られた情報は職員に周知してケアに活かせる工夫をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活のペースを把握し快適に過ごして頂けるように努めており起床時間や就寝時間は基本的には、ご本人のペースに合わせています。ご本人の楽しみや嗜好を探り、安全に行って頂けるよう実施場所なども全員で検討しています。利用者それぞれに役割をもっていただき、家事を分担して行っているため今ではそれが日課になってきています。 ADL低下予防のため、毎日昼食前の口腔体操では下肢筋力を向上させる体操を取り入れて実施しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>会議を定期的に関くほかに担当職員が中心となって本人の意向を聞いたり家族に直接あるいは電話で意見を聞いたりし、ご本人や家族と共に介護計画を作成するようにしています。連絡ノートや利用者ノート、グループホーム会議の場を活用することにより、職員同士でもアイデアや意見が言えるようにしています。ご家族参加型の行事を増やすことでご本人のグループホームでの現状をみて頂き、意見を収集して計画につなげる事ができました。</p>	<p>計画作成担当者は、日頃の会話の中で利用者の意向や思いを聴き取っています。家族からは面会や電話で意向を聞いて介護計画を作成しています。作成した介護計画は利用者や家族に説明して同意を得ています。カンファレンスでは利用者の担当職員より、本人の意向と担当職員としての意見やアイデアを聞いて、現状に即した介護計画を作成しています。介護計画は概ね6か月毎に見直しを行っています。変化があればその都度見直して作成しています。計画作成担当者は日々のケアの中で利用者の言葉や表情から意向の把握に努め、10日毎に介護計画の実施状況の確認をしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送りや健康チェック表、利用者ノート、毎日のミーティングの場を利用しながら、会議以外でもいつでも意見や気づき、アイデアを記入することで情報を共有しています。ケアプランの実施表を設け十日ごとのプラン実施状況を記載しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設している小規模多機能と合同でイベントを行う機会を設け、施設内においても「おでかけ」の感覚で小規模多機能まで移動して楽しんで頂いています。</p> <p>その時々歩行状態に合わせた福祉用具の必要性を、ケアマネを中心に検討し、安全・安定して利用できるまで訓練を行った事例もあります。手首の骨折で立位や歩行器歩行が困難になった事例では、始めは車いすを用いて介助を行い、次に自操していただき、ギプスが外れた段階で近位見守りの下で歩行器を使用していただくという過程を経て、以前の歩行状態を取り戻していただくよう図っています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域からボランティアでさまざまなレクリエーションの提供に来てもらっています。バルーンリハビリ、音楽療法、ハーモニカ、フラワーアレンジメントなどはみな、地域のボランティアさんに支援して頂いています。</p> <p>また、地域の防災訓練に利用者様とともに参加し、地域の防災力を見学に行かせていただく機会もありました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者様の疾病に応じて受診が出来るように、主治医とも連携を図っています。看護職を介在させることによって医師への連携がスムーズに行えるようにしています。日常的な医療管理については、往診により受診して、いつでも相談や連携が行えるようにしています。往診前には看護師が事前にFAXをしており、スムーズな受診につなげています。他科に受診する際にも主治医に紹介状を作成していただきスムーズに受診できています。かかりつけ医とは休日や夜間でも常に連絡が取れる体制にあり、発見した異常を早期に解決することにもつながっています。</p>	<p>利用者の日常的な医療管理については、かかりつけ医の往診を月2回受けられる体制を整えています。また、週1回、歯科医の往診があり、希望者は受診できます。眼科や耳鼻科等、他科へ受診する場合は家族に協力してもらっており、入居前から通院していた精神科に受診する方がいます。緊急時や骨折等で整形外科へ受診する際には職員が同行して支援を行っています。かかりつけ医とは休日や夜間も連絡が取れる体制が構築できています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>健康チェック表や申し送りを中心に、看護師と介護職員が連携をとるようにしており、少しの変化でもすぐに相談ができる体制をとることができています。また、日常のケアの中で、健康面で少しでも疑問に感じた事や異変ではないかと思ったことについては、いつでも看護師に連絡をとって指示を仰いでいます。日々しっかりと健康状態を観察し看護師の出勤日には申し送り簿、利用者ノート、医療ノート、口頭で報告が伝わるようにしています。また、往診の後にはその結果を医療ノートに記載して周知をはかっています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはすぐに利用者の日常の状態を病院に伝えられるように、「ケア手順書・看護サマリー」を整えており、適宜見直しをしています。入院時には定期的に本人を見舞い、不安を減らす支援をするとともに、家族とも連絡をとりあい、病院内での様子や変化、退院の見通しなどについて情報を得るようにしています。また、退院前にカンファレンスを持ってもらうようMSWなどに働きかけています。カンファレンスにはできるだけ看護職も参加するようにしています。カンファレンスが不可能な場合には、必ず看護サマリーをいただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応に係る指針を設定しており、契約時から終末期について家族の意向を確認し書面で保存しています。本人の状態が変化した場合にはあらためて家族の意向を聴くようにしています。看護職員を配置し、かかりつけ医との連携を強化しています。医師からは「夜中でもなんでもおかしいと思ったら私に相談しなさいよ。」と声をかけていただいています。終末期の判定は、ご家族に対して主治医からしっかりと説明をしていただくことができました。</p>	<p>職員は「重度化した場合における対応にかかる指針」を策定し、緊急フローチャートに従い対応を行う方針を共有しています。家族には、入居時に「重度化した場合についての事前確認書」に沿って意向を確認しています。家族の希望により過去に看取りを行った事例はありますが、現在は行っていません。今後に向けて、ホームでは「重度化対応の定義」として、「医療行為が必要ではない場合において、毎日のケアでできる範囲での支援を行うこと」とし、職員と共通認識しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>                      利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応はマニュアルを設けており、研修時に理解するとともに、実践的な訓練を行っています。緊急時には隣接する小規模多機能と連携して事にあたるように教育を徹底しており、とくに夜間については新人教育時から対応の方法を繰り返し伝えて、職員にも不安がないようにしています。事故発生の場合は事故報告書を作成し、原因究明をきちんと行う事によって再発防止に努めています。繰り返し事故、重大事故、内出血については、介護職員の心理状態や前日からのご本人の様子も記載できる様式を用いて、介護、環境、本人状況などの多角的な原因解析が行えるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年 2 回の消防訓練を職員、利用者参加のもと行い、避難方法や初期消火の方法を身に付けています。地域の利用者家族や民生委員とも協力して訓練をおこなっています。加えて、地域の防災訓練にも参加し、ティアラの存在を知って頂くとともに、地域の防災力を理解する努力を行っています。</p> <p>平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災、平成 28 年 4 月 16 日の熊本地震を受け、香西会では拡大安全対策委員会を設け、大規模災害時に備えたマニュアルを整備し備蓄を確保しました。</p> <p>平成 30 年 6 月 18 日に発生した大阪北部地震では、食器が割れた程度の被害で事なきを得ましたが、周囲の住宅の損壊状況や、ライフラインが一時停止したことを重大に受け止め、備蓄品を完備できるよう随時充実させています。法人全体の計画として、平成 30 年度中に3日分の水と食料を揃え、次年度には衛生材料等の物品も充実させることを行っています。</p>	<p>法人全体で大規模災害に備えたマニュアルを作成し、避難場所の地図や経路もわかりやすく明示されています。今後に向け、利用者の避難先の場所を家族に伝えておくことも検討しています。</p> <p>年 2 回消防署指導の下、通報、初期消火、避難訓練を実施しています。訓練には地域に住む利用者の家族や民生委員の協力を得ています。昨年のお大阪府北部地震災害の経験を踏まえ、備蓄として 40 名が3日間過ごせるように食料品と水を備えています。今後は衛生用品等の物品も充実させる方向です。また、職員は地域の防災訓練にも参加し、ホームの存在の提示、地域との連携、協力の重要性を認識しています。ホームが大きな河川に近い低地に立地しているため、浸水の被害が想定されており、今後の課題として職員間は共通認識しています。</p>	<p>災害に必要な備蓄、食糧や水は十分に準備されていますが、一か所にまとめて段ボールに入ったままです。今後は、利用者一人ひとりに合った物品や非常食を準備し、緊急時に持ち出し可能な状態にしておくことが望まれます。今後の取り組みの成果が期待されます。</p>



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令・強制・否定言葉の禁止は理念にも掲げており、新人研修でその重要性を学ぶとともに年2回の全職員を対象とした基礎研修でも再度徹底して人格尊重の教育を行っています。個人情報の記載された書類は必ず鍵のかかる場所に保管し、廃棄する場合はシュレッダーを通したり、機密文書廃棄のルールに則って廃棄しています。さらに業務上知りえた利用者および家族の秘密は洩らさないことを説明したうえで雇用契約を締結しており、職員の入社時研修でも教育するとともに同意書をとっています。また、介護を行う際には羞恥心に配慮して実施するよう研修などで徹底しています。	管理者は職員に、利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保の重要性を伝えています。否定・命令・強制の言葉の禁止について職員間で共有しています。職員は利用者に寄り添って、小さな声で話しかけています。本人の名前が書いてある日々の記録等については、一定の場所から持ち出さないような配慮をしています。 職員の教育を徹底し、新人研修、全職員対象の基礎研修などで周知しています。個人情報保護、秘密保持について運営規定に明示し、職員には入社時に同意を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>今日着たい服や今したいことといった日常生活の細かい部分にも、本人の意向を反映するようにしています。例えば、お風呂の準備はできるだけご本人にさせていただき、下着や服などを選んでいただいて、職員が確認するようにしています。行事で外食を食べるときには写真つきメニューを用意して、ご本人の「わかる力」を活かして自己決定できる工夫をしています。したいことを防げない声掛けの工夫は常におこなっています。朝はゆっくりと起き方には遅い時間を融通しています。お化粧ができるご利用者様には、できるだけご自分の力でメイクできるよう声掛けを工夫しています。自己決定と安全・健康のバランスがとれるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や就寝時間などは、ご本人の生活ペースを尊重しています。例えば朝起きるのが辛い日は、食事廃棄の制限時間までゆっくりと休んでいただき一日が気持ちよく過ごして頂けるよう配慮しています。ご本人の希望を優先する努力をしていますが、こちらの都合で予定を変更する場合や利用者のその時の気持ちに合わないことに対しては、本人の事前の納得が得られるよう十分な説明を行っています。読書が趣味で、本に夢中になり、日課の開始時間がわからなくなるご利用者様には、事前に何度かお声掛けして、お部屋から出ていただくタイミングがご自分で決められるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしの情報を把握したことにより、その時々状況にあった服を選んだり、本人がおしゃれ道具や服を使いやすい配置にしたり、いつでもおしゃれが楽しめるように配慮しています。また、家族には事前に行事や本人のおしゃれや整容に対する意向を伝え家族と共に準備ができるようにしています。行きたい店でカットやパーマができるよう支援したり、あしの不自由な利用者が毛染めできるよう手配したりといった実践を行いました。整容のチェック表を新設し、「爪切り・耳掃除・髭剃りなど」の間隔が空きすぎないように工夫ができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、おしぼりの準備・机ふき・食器、おぼん拭き、後片付けなどに関わってもらうようにしています。食べる事が苦痛にならないよう、本人のペースで食べて頂き、食べやすい食事形態や食器の工夫を行っています。食の細かい方にはおにぎりをにぎったり、ふりかけをかけてみたり、盛り付けを工夫したりと食事が楽しくなるようにしています。又、行事として定期的に手作り料理の日を設け、利用者様、職員で担当を決め、できる限り食べたいメニュー、買い物、下準備、調理、食事まで一緒にご参加していただける工夫もしております。ご自分で作った料理はいつもより食が進むようです。	食事は、ご飯とお味噌汁をホームで作り、おかずは調理済みの食材が給業者から届けられています。メニューは決まっていますが、好みに関しては変更が可能であり、またアレルギーに配慮しています。月1回は「手作り料理の日」として職員の協力で利用者がメニューを決め、買物から調理まで行っています。手作りおやつの日もあり、給食の調理師をしていた利用者の活躍の場所にもなっています。外出行事では「テーマ飯」の日を設け、弁当を買う、回転寿司へ行く、出前をとるなど、利用者に喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>                      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全ての利用者様について食札などに食事形態や制限を記載し、誰がどのような形で摂取するかがわかるようにしています。できるだけ安全に美味しく食べていただけるよう日々観察を行い、看護師や医師、家族様と相談しながら食事形態を変更しています。水分も含め、食事摂取量は一覧できる記録表に残しています。とくに水分摂取量には気を付けており、10時にはコーヒータイムを設けて水分摂取量を上げるように努めています。又、夜間時に水分補給ができるように、希望する方には専用ボトルをご用意してお茶を入れいつでも飲めるよう提供しております。こまめに清掃・新品のお茶と交換対応しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人一人の利用者に応じて、できるだけ本人の力を活かして食後に口腔ケアが行えるようにしています。義歯ケースをどこに収納したのか分からなくなるご利用者様には、食事直後に義歯を外していただいて預かるなど、かむことに不自由が出ないように工夫しています。希望者には訪問歯科診療が受けられるように手配しています。</p> <p>全員が食事前のうがいを行うよう習慣づけています。昼食後には音楽を流し、自発的な口腔ケアを促しています。最終的には、音楽が流れれば自発的に口腔ケアに行くようになるのを目標にしています。</p> <p>個々人の磨き残しや口腔トラブルについては、歯科医より適宜アドバイスをもらうことができます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>健康チェック表を活用し、日中夜間の状態に配慮し、かつ本人の身体的・精神的負担を考慮し、本人にふさわしい排泄の方法を家族とともに選定しています。排泄一部介助の方については立位、移乗、後始末など、ご本人ができることは可能な限りがんばっていたりするようにしています。トイレ時間が長い方やトイレ内で眠ってしまう方、トイレで転倒したことのある方については、常に声掛けを行って内部での安全確保に努めています。</p> <p>排泄行動自体が自立していても、パッドやパンツの交換が適切にできない方には、毎回タイミングをみて介入し、正しく排せつ用具が使用できるようにアドバイスをしています。</p> <p>また、オムツ利用の方については、その方の排泄量や睡眠状態に応じて、吸収量の違うパッドをご家族様と相談の上で用意していただき対応しています。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、職員は利用者が気持ちよく排泄することを目標に日々取り組んでいます。排泄チェック表等を活用し、利用者一人ひとりの習慣やパターンを把握しています。利用者の自尊心や羞恥心への配慮を念頭に置き、トイレ誘導時には小さな声で話しかけ、できることは利用者自身で行うように見守り、排泄の自立に向けた支援を行っています。また、排泄行動が自立している利用者の衛生状態の確認については、その日の様子や生活リズムから察知し、さりげない声かけでパッド交換を促す、入浴の脱衣時に確認をする等、清潔保持の支援を行っています。職員が介入する場合には、利用者には不安や不快感を与えないよう、細心の注意を払っています。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>看護師や医師と連携をとりながら、運動や水分補給を促し、便秘の予防に努めています。水分の摂取を促すことで浣腸の回数が減った事例もこれまでにありました。排便リズムは健康チェック表に記載して全職員が共有しています。看護職員が排便の無い期間を常にチェックし、三日間便秘が継続している時点で医師と相談して排便ができるよう、投薬や摘便の指示をうけています。</p>		
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>気の合う利用者同士が同じ時間に入浴できる配慮を行っています。一方で入浴が高齢者にとって体力を消耗するものであることを全員が理解し事前のバイタルチェックを欠かさないようにして、血圧や体温に異常がある場合は看護師の判断により清拭に切り替えたり、入浴を中止したりする場合もあります。</p>	<p>入浴は、平均週 3 日行っています。利用者の生活リズムやタイミングを考慮し、またその日に希望があれば、入浴ができる体制を整えています。仲の良い利用者同士と一緒に入浴を楽しむこともあり、職員は利用者一人ひとりの思いや意向にそった支援を行っています。入浴時のシャンプーやコンディショナーは、利用者本人の好みの物を使用しています。また、入浴を好まない利用者への対応として、利用者が希望する入浴時間や順番の変更、声かけの工夫等、利用者の不安や羞恥心に配慮し、安心して入浴してもらえるよう取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の疲れの程度や体力、本人からの希望に応じて、日中にも時間を決めて臥床し、休息してもらえるようにしています。前日の睡眠時間も考慮に入れながら臥床する時間の長さを決めていきます。夜間眠れない場合や傾眠が強い場合には、主治医にも相談できる体制ができています。布団対応にするか、ベッドをご利用になるか、抱き枕が必要かなど寝具についても家族と共に考えています。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用開始時に服薬説明書を提供してもらい、薬の目的や副作用、用法、用量について看護師を中心として全員が理解するよう努めています。処方箋と照合しながら配薬は看護師の手で確実にを行い介護職員はシフトによって服薬に関する役割を決め、必ず提供までに二人以上の職員でチェックできるように配慮しており、服薬チェック表で確実に服薬ができる支援をおこなっています。帰宅時や外出時には、専用の巾着袋に必要な分の薬を準備し、確実に持ち帰って服用して頂けるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの利用者の能力に応じ、できる家事を割り振って毎日の日課として行ってもらっています。洗濯たたみ、洗濯干し、食器・お盆拭き、おしぼり巻はご利用者様の日課となっており「まだ、洗濯乾かんの？」と、ご利用者様から積極的関わろうとする声も出ています。</p> <p>フェルトを使ったカレンダー作りには、ご利用者様が数字を切り抜いたり、貼りあわせたり、縫い物をしたりと、それぞれができることに取組み、完成までこぎつけました。</p> <p>家事の役割を見つけにくかった男性利用者には、他のご利用者様の誕生日カード作成に携わっていただき、とても凝ったレイアウトでシールやテープを貼って飾りつけをされ、新たな才能を発見する事もできました。</p> <p>ベランダにはチューリップの球根を植えたプランターを設置し、毎日水やりを行っていただき、春に向けての楽しみも持って頂いています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気や気候、ご本人の体調をみながら、近くの公園や堤防、ポストに郵便物投函などいつでも散歩できるよう支援しています。又、地域のごみ拾い等に参加して下さることも、草刈りに参加していただくこともあります。地域の防災訓練には、ご利用者を伴って参加するようにしています。職員が行う買い物の際に、利用者様に同行を促し、街並みや商店の雰囲気を楽しんでもらっています。地域にあるカフェでお誕生日会を実行しいつもと違った雰囲気を楽しんで頂くこともできました。また、地域の運動会には複数名の利用者と参加し、パン喰い競争に出させていただいたうえ、地域の方とも交流する事ができました。</p>	<p>職員は利用者が、「心身ともに健康に過ごせる」ことを目標とし、外出の支援に取り組んでいます。戸外で気持ちよく生き活きと過ごせるよう、利用者一人ひとりのその日の希望に沿って近くの公園や堤防等へ、いつでも外出できるよう支援しています。毎週実施している地域のごみ拾いでは、数種類あるコースから選び、職員と利用者が1対1で出かけ、地域の方々と自然に交流をしたり、作業中に本人の思いや意向を聴き取っています。聴き取った内容は記録に残し全職員で共有しています。また、地域の防災訓練や運動会への参加、外食等は、地域や利用者家族の協力を得ながら行っています。「五感刺激」の機会として、外出を活用しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族様と相談の上、可能な方に対しては自己管理で願っています。自己管理が困難な方については、限度額を聞いておき、領収書をもって対応しています。行事の際のお小遣いや小銭は出来る限りご本人にもっていただくようにし、職員が付き添ってお金を使う感覚を呼び覚ましていただいています。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の要望があれば対応するようにしています。本人ができる部分を見極めて、最少の援助を行うように心がけています。年賀状のお返事を書きたいと言う要望については、共に年賀状を買いに行き、書かれたものを近所のポストに投函する事を支援しました。 家族と電話で話したいご利用者様については、設置してある公衆電話が使えるように支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物自体民家風にし、内部は木のあたたかみを感じられる空間としています。季節ごとに飾り付けを変え季節感が伝わるよう工夫しています。飾りつけの作成には、ご利用者様に参加していただき、つくる段階から季節感を味わっていただけるようにしています。利用者の行事などの写真や香西会で作っている新聞を掲出し、親しみが持てるよう工夫しています。共有スペースはフリーとし、それぞれが好きな場所で好きなことをして過ごせる空間の演出もしています。小規模多機能ホームを以前ご利用になり、小規模の利用者となじみの関係がある方には、決まった時間に小規模を訪問できるよう工夫をしています。フロアは日差しがよく入る明るい空間ですが、時としてまぶしさや暑さの原因になるため、ご利用者様の了解を得ながらカーテンにより光や温度が調整できるよう工夫しています。</p>	<p>共用の空間は利用者や訪問者があたたかみを感じられます。日々利用者がゆったりと「生活」を送ることができるよう配慮しています。</p> <p>居間と食堂は、明るく開放的なスペースで、食堂の大きな窓からは、田園風景が眺望でき、日差しがよく入る明るい空間になっています。職員が台所で作業をしても、利用者と目線が合い、自然にコミュニケーションをとることができます。四季を通して快適に過ごせる湿度管理のため、「高度空気清浄加湿器」を導入し、気温と湿度の調整や静電気の防止を行っています。</p> <p>利用者が日中過ごすことが多い居間では、空調の風が直接利用者にあたらないようカバーをつけて対応しています。玄関や廊下には、2人がけのソファが配置され、利用者それぞれ思いの空間でくつろぐことができます。壁面には、利用者と職員の手作りカレンダーや季節の飾りつけ、タペストリー等の掲示をし、利用者と職員の協同作品から「季節感」を出し、誰もが居心地よく過ごせるような工夫をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間の中でも、自分の席、台所、職員詰所など、自分が居たい場所に自由に移動してもらっています。それぞれにお気に入りの場所を確保して過ごして頂いています。広間の中での席順は他のご利用者様との関係性を見ながら、お互いが不快にならないように配慮して決めています。</p> <p>食事以外の時間には事由に席を移動していただき、お一人の利用者様が様々な方と会話をしたり、ゲームを楽しんだりできるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、早くなじめるように、長年愛用した家具の搬入などお願いしています。個人の愛用品やなじみの品はその都度持って来て頂けるようにしています。一方で、搬入された家具に乗ろうとされるなどの危険行為が見られた場合には、危険なく使っていただくための工夫をし、場合によっては持ち帰って頂くことも行っています。ティアラに來られてからの写真はアルバムに整理し、いつでも思い出を振り返ることができるようにしています。	居室は、居心地がよくゆったりと過ごせる広々とした室内になっています。ホームでは、できるだけ自宅で愛用した家具や、思い出のある物等をそのまま利用してもらえようお願ひしています。利用者は、寝具や仏壇等の使い慣れた物を持ってきています。入居時には、利用者の身体状況に適した寝具等の選定を、利用者や利用者家族と共に行っています。職員は今後、居室の広いスペースの活用方法を、利用者と家族に提案して、利用者にとってより温かみのある居心地の良い居室になるように取り組んでいく予定です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室掃除を共におこなうことにより、安全性を確かめながら居心地の良い空間をつくりだしています。居室やトイレが分からなくなる方については、名札やトイレの表示を大きく書き出し、本人が安心して使えるようにしています。ベッドが馴染めないご利用者さまには布団対応をしつつ、立ち上がりの能力や危険性を配慮し、立ち上がり用の手すりを設置した事例もありました。		